

だれもが本を楽しめる社会へ

今年6月、「読書バリアフリー法」が成立し、視覚や上肢の障害、発達障害がある人のための読書環境整備が求められるようになりました。図書館の点字書籍や電子書籍の充実、電子書籍販売の促進などが定められています。一方で、読書に壁を感じるのは、障害がある人だけに限りません。

世界が目指す SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) にも重なる「誰もが本を読む」ように取り組む活動を紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を良くするための17の目標



▼ 夜間中学に通う人たち

日本では識字率は99%とされていますが、今現在も様々な事情で学校に通うことができない人がいます。そのような人たちに義務教育の機会を提供する場としてあるのが夜間中学です。

夜間中学は夜の時間帯に行われる学級のことです。全ての課程を修了すると中学の卒業証書がもらえる公立の夜間中学と、民間ボランティアの人たちの協力のもと実施されている自主夜間中学があります。

戦後の混乱期に義務教育を修了しないまま学齢期を過ぎた人たちに加え、近年は本国で義務教育を修了していない外国籍の人や、義務教育を学び直そうとする10代20代の若者が学んでいます。

ここ数年、小中学校における不登校の児童生徒の割合は増加し、また虐待や無戸籍などの複雑な家庭事情により、未就学期間が生じている人の存在も明らかになっています。

こういった状況を受け、平成28年に義務教



夜間中学へようこそ
山本悦子著／岩崎書店

夜間中学に通う祖母を通して、そこで学ぶ人と出会う優菜。勉強する機会に恵まれなかった人の思いに胸がいっぱいになります。

育で身につけるべき学力を得られない人たちに對し、教育の機会を確保することを目的とした「教育機会確保法（不登校対策法）」が成立しました。文部科学省は、公立の夜間中学が少なくとも各都道府県に1校は設置されるよう自治体に求めています。現在9都府県にわずか33校。多くの自治体では計画すら無いのが実態です。

義務教育修了が当たり前の世の中でも、様々な事情により十分に教育を受けられなかった人たちが確かにいます。私たちに必要なことは、まずその事実を知ること。そしてそういった人たちの存在を無視せず、読み書きできない苦しみ思いを巡らせ支えていく姿勢が社会には求められています。

(酒井)

▼ 外国語を母語とする人たち

母語以外の言葉で本を読むのは簡単なことではありません。言語を学ぶ大変さは、多くの人がうなずくところでしょう。日本で暮らし外国語を母語とする人たちに對しては、どのような学習支援があるでしょうか。

清瀬市の場合、清瀬市国際交流会（KICC）が日本語教室を行っています。受講生は4クラスで約60人。中国、韓国、フィリピン、ベトナム、インドネシア、ネパール、イギリスなど、様々な国にルーツのある人が学んでいます。

学びを支えるのは、日本語を母語とするボランティアです。清瀬市とKICCの主催で毎年行われている

すべての子どもに絵本を

国際活動から

「食べ物がなくなったらとなり村を襲えばいい」5歳から親元を離れ、民兵になるために銃の使い方を教えられた男の子。戦場の最前線で戦うことに疑問を持つことなく、親の愛着も知らず、学校に行つたこともありません。アフガニスタンで初めて少年兵に会った時の衝撃を今でも鮮明に覚えています。その厳しい目をした彼が、子どもたちに紙芝居を読む職員の姿に見入り、物語に引き込まれ、おかしくてふと笑ってしまったその顔は15歳の少年に戻ったようでした。恥ずかしそうにすぐに顔をそむけた少年は、ほんの少し、失った子どもとしての時間を取り戻したのです。

(今年7月SVA新事務局長就任あいさつより)

日本では、2000年から0歳から絵本に触れる「ブックスタート」が広がり、清瀬市でも実施されていますが、世界には本を知らない子どもたちが数多くいます。公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）では、難民キャンプや学校の開校が難しい村へも図書館作りや本を届ける活動を行っています。実際に18年間に27万冊の本が翻訳して届けられ、子どもたちの未来を切り開いてきました。

子どもたちの健全やかな成長を助け心豊かな生活をするこの活動には、愛と平和・希望が詰まっています。

(栗山)



「日本語学習支援ボランティア養成講座」の修了生60〜70人が、原則マンツーマンで学習を支援しています。



今年6月に成立した日本語教育推進法では、外国にルーツのある地域住民が増加している現状を踏まえ、日本語教育の充実が国・自治体の責務とされました。同時に、子どもたちの家庭で使われる母語の重要性も掲げられています。一人ひとりのルーツを大切にしながら、生活に必要な日本語を学ぶ、その体制の一層の充実が期待されています。

(近藤)